

地元木材による縦ログ構法を採用した2つの社屋 ふたば富岡社屋、郡山社屋

富岡社屋：福島県双葉郡富岡町 郡山社屋：福島県郡山市

設計・監理／はりゅうウッドスタジオ
施工／富岡社屋：東北工業建設 郡山社屋：芳賀沼製作

（株）新建築社発行の建築雑誌「新建築 11月号」で掲載されました。



富岡社屋執務室内観 高さ2.85mの縦ログパネルを2層分立ち上げ、約6.1mの吹抜けを構成している。縦ログ材・梁・桁材には富岡の森で産出したスギ材が使用されている

設計主旨

— 復興の魁となる木の活用

「津波の来ない海岸線の高台に、先代が植えた木を使って家を建てること」2011年3月11日の地震直後、施主と話した目的はこのひとつだった。しかし、次の日に起こる原発事故によって方向は大きく変わり、津波被害だけでなく双葉郡を中心とし、福島県全域かつ長期に渡る大きな出来事へと広がっていった。

社屋の本計画が始まった当時(2015年)、施主の先代が植えた木(富岡の森)があるエリアは避難区域に指定され、区域内の樹木を建築材料として使った前例がなく、町、県、国の様々な林業関係者との協議・公的機関での検査を実施により伐採・町外搬出の許可を得たが、地元の林業関係者の間では町外搬出の是非を問う論議が起こった。幸いに富岡の海岸沿い地域の放射線量の数値は原発事故直後でも低い所が多く、木材は現地での皮剥き作業によってその値が極端に下がったため、いわき市の製材所で製材と乾燥を行い、工期を短縮するために分業体制で建築へと進むことができた。

先代が植えた樹齢50～60年の木材は今回、新たな2つの拠点として息づいた。震災の復興は、伝統や風習の復活によって地域づくりが始まる道もあり、建築という行為から物語をつくる道もある。復興の安定期を迎える今

こそ活用や合理性を備えた地元の木材を使った縦ログパネルが活きると思い、木質系材料として標準化を念頭に置いた構法として、今後の展開を図りたいと考えている。

— 富岡社屋

地域支援活動を支える開かれた事務所

震災以前より長らく拠点としてきた場所への事業拠点復帰を考える上で新社屋では、業務機能を満たすだけでなく、復興期の様々な活動の場として開放することを想定し、海側の通りに向けた1F地域開放室、2F多目的スペースを計画した。

富岡の森の木材は主に杉材を150×150mmの縦ログ構造壁として生かし、4隅のコアにはさまれた2階までの吹抜けの空間を執務室とした。コア部分の壁を一部抜くことで、執務室とコアが緩やかにつながる一室空間の社屋が生まれた。

— 郡山社屋

2地域に跨り避難期の活動を支える拠点

震災直後、富岡町民の2カ所目の避難先となった郡山市は、市内に富岡町の仮設庁舎が置かれ、ふたばにとって、避難期間のもうひとつ拠点を置く背景となった。今回、富岡町の避難者でもある友人から敷地の一部を譲り受け郡山社屋の建設に至った。

富岡社屋との共通点は、富岡の森で伐採した木材をすべて活用することであるが、縦口

グ構法に適する杉材は富岡社屋への割振りを優先し、残りのスギ材と桧、建築材料としてあまり使用されないモミ材も生かすことを初期に設定した。平面計画の中で、不整形の敷地形状をカバーすることや、隣の(友人が経営する)店舗との同居を図りながら、業務に必要な駐車台数の確保等が課題となったため、2階に配置した会議スペース下部を駐車スペースとして活用し、ピロティの下から中庭を抜けて南側奥に延びた執務空間が見える計画とした。2階執務室の小屋組の構造は、6.5m長にしたモミ材を使用し連続する張弦梁の一室空間を作り出した。

(芳賀沼 整、滑田 崇志
／はりゅうウッドスタジオ)



富岡社屋1階平面図 縮尺1/500

郡山社屋1階平面図 縮尺1/500



2階桁上にはヒノキ化粧合板を用い、仕上げ材ともしている

ふたば富岡社屋、郡山社屋 データ

所在地 富岡社屋：福島県双葉郡富岡町大字小浜地内
郡山社屋：福島県郡山市安積地内

主要用途 事務所

建築主・発注者 株式会社 ふたば

設計・監理 はりゅうウッドスタジオ

担当／富岡社屋：芳賀沼 整、滑田崇志、早川真介、松本鉄平 郡山社屋：芳賀沼 整、滑田崇志、村越 怜

構造 エーユーエム構造設計(富岡社屋・郡山社屋)
担当／濱尾博文

機械 エム設備設計(富岡社屋) 担当／齋藤義彦
電気 遠山設備設計(富岡社屋) 担当／遠山邦夫

施工

富岡社屋：東北工業建設 担当／石井信二

郡山社屋：芳賀沼製作 担当／田口卓弥

[建築概要]

■富岡社屋

敷地面積 1,340.40㎡

延床面積 343.53㎡

構造規模 木造 地上2階

設計期間 2015年10月～2016年12月

工事期間 2017年2月～2017年8月

■郡山社屋

敷地面積 627.49㎡

延床面積 301.17㎡

構造規模 木造 地上2階

設計期間 2015年10月～2016年12月

工事期間 2017年2月～2017年8月

撮影／近代建築社(根本健太郎)



上／富岡社屋南東側外観 右手に見えるデッキは、地域交流室に面しており、外部へ開放して一体的な利用も可能となっている 左下／地域開放室は、業務と独立して地域活動への開放も可能である 右下／執務室は南北上部に採光のための開口をもつが、1階レベルの開口により通風をコントロールし、壁面により執務室の独立性を確保している



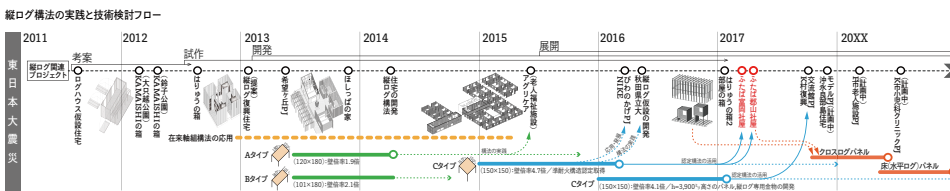
郡山社屋外観 約11mスパンのピロティを持ち、2階は縦ログ壁に囲まれた会議室である。準防火地域ながら、縦ログの準耐火性能の大臣認定を活用することで内外木表しとなっている 郡山社屋内観 富岡の森から切り出したモミ材を組み合わせて8mスパンの調気梁による一室空間の執務室が生まれた



芳賀沼 整……はがめま せい
1958年福島県生まれ。2002年東北大学大学院修士課程修了、2015年同大学院博士(工学)、2006年はりゅうウッドスタジオ設立。現在、はりゅうウッドスタジオ取締役



滑田 崇志……なめだ たかし
1980年徳島県生まれ。2005年東北大学大学院修士課程修了。現在、はりゅうウッドスタジオ代表取締役



富岡社屋、建て方の様子①



富岡社屋、建て方の様子②

協力会社

外	壁	材	二	チ	ハ
木	工	事	ダ	イ	テ
					ク